

(発行) 東京都リハビリテーション病院医療福祉連携室  
〒131-0034 墨田区堤通2-14-1  
TEL : 03-3616-8600 FAX : 03-3616-8699  
<http://www.tokyo-reha.jp/>

東京都リハビリテーション病院  
医療福祉連携室

# ほっとリハフォーラム

創刊号  
H16年11月20日



## よろしく! 「医療福祉連携室」 です

「リハビリのことを、なんでも相談できる窓口が欲しい!」

そんなご要望に応じて、東京都リハビリテーション病院に新しいセクションが誕生しました。従来より、地域リハビリテーション支援センターとして訪問リハビリ指導や出張研修会の開催などを担ってきた『地域リハビリテーション科』と、入院・外来相談や退院準備、社会復帰援助などを行なっている『相談科』が、新しい部門を担当、エントランスホールに面した新事務室に移動しました。総勢12人の職員が電話やFAXの相談を受けています。早速、近隣の諸機関をお訪ねし、リハビリに関するニーズや、研修内容についてのご要望などを伺って、事業に活かす準備をしています。これまでに、理学療法士や医療ソーシャルワーカーの当院での1日(又は、半日)研修やリハビリテーション医や理学療法士の障害者センターへの出張支援などの希望が聞かれ、システムをつくる検討を始めています。また、高次脳機能障害や難病患者さんのリハビリなど、最新の医療や二次的障害の予防に関する新しい医療福祉情報の提供や訓練についても対応の準備を進めています。

### 東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

## 創刊にあたって

病院長 服部 博之

都リハの連携誌がやっと誕生しました。まずはささやかなものではありますが、皆様のお手元にお届けすることができ、至上の喜びです。当院は平成2年、リハビリ医療の普及のために東京都墨田区に設立されました。そして、「身体に障害を持たれた方が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生を送られるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる」という理念のもと、10数年間、リハビリ医療の提供に様々な努力を重ねてきました。しかし、何かが欠けていたことに気付きました。そうです。我々の病院の「情報」を、皆様に届ける手段を欠いていたのです。

今年7月、今まで手狭だった地域リハビリ科を拡張し、相談科のMSW部門と合体させ、総勢12名の「医療福祉連携室」が誕生しました。患者さんやご家族への支援の手を広げ、皆様と共にリハビリ医療をさらに勉強するためです。そして、これを契機に、連携誌を発行することによりやく至りました。創刊にあたり、頭を捻ったのがネーミングです。「ほっとりハフォーラム」、変な名前だと思われるかもしれませんが、これは、仕事が一段落して「ほっとり」した時など手にとって読んでいただきたいという気持ちと、「ホット・リハ」、何らかの新しいリハビリテーションの情報をお伝えする意をかねたもので、東京都リハビリテーション病院の愛称「都リハ」とも分るようにしました。「フォーラム」は、皆様と共にリハビリを考える場、ということでごつけました。最初は気張らず、院内の出来事や皆様の声を載せ、皆でリハビリについて考え、改めるべきところは改めて行きたいと考えています。終わりに、「都リハの連携誌はまだか」と、皆様に期待されるようになればと願っています。

## 堀田富士子医師が地域リハビリ科に着任しました！

堀田医師は7年前にも当院リハビリテーション科に勤務。その後新設のリハビリ専門病院に赴任し、さらには都心の総合病院リハ科で活躍され、この9月に、5年間在席された大塚医師の後任として地域リハビリ科に着任しています。さっそく、インタビューしてみました。



### ・さて、久しぶりの都リハの印象は？

鐘ヶ淵に戻って来た実感したのは、朝からやっている飲み屋が駅前はまだあったこと(!?)。夜遅くから朝までやっている居酒屋で、朝、ジョッキを持ったおじさんが出てきたりして…。他にもお好み焼き屋さんが飲み屋にかわっていました。駅からの道にたっている都リハの看板はさすがに大分くたびれていましたね。

### ・着任早々、訪問の仕事が入っていますが・・・

これまで訪問(往診)はほとんどなく、今は車の運転が大問題で緊張しています。

### ・病院の診察室で患者さん家族と話しをするのと患者さん宅でするのは違いがありますか？

病院では無口な患者さんが自宅ではよく話してくれるのですね。立場の違いが大きいのだと思いますが、診察とは関係のない話題がふくらんだりして・・・

### ・最近よくいわれる地域リハビリテーションというのはこれまでのリハビリテーションとはどちらがうのでしょうか？

リハビリはまず急性期と回復期があり、維持期に入り、病院と地域で担うことになるわけですが、今ひとつ地域リハビリの現状がつかめないので。ニードは多いのに訪問PTは増えていないんですね。コストパフォーマンスが悪いからでしょうか・・・

### ・ある程度広い場所や運動機器などがないと「リハビリ」はできないと思ってしまおうのですが・・・

「リハビリ」という語には概念、機能などさまざまな意味が含まれています。あまりにも包括的で大きすぎるのに、さらに「地域」がついたのもっとわかりにくくなっているんじゃないかと思います。

- ・リハビリ科の医師になろうと思われたきっかけは・・・  
最初に神経内科の研修から入ったんですが、急性期だと歩けるようになる前に転院してしまう。その先がどうなるかが気になっていました。当時、癌は告知しないことが多かったのですが、大切なことを本人に言わないで治療が進んでいくことに疑問を抱いたことを覚えています。本人の意志を確認しながら一緒にやっていくのがいいと思いました。

### ・リハ科と他の診療科との違いは？

リハ科にはプロトコルがない、科学的ではないと思いました。今考えると、一人一人の背景が違うので当然なのですが、当時は何か計れることがよいと思っていました。脳卒中ガイドラインでさえもリハビリの効果についてはまだまだ十分には立証されていないので、リハビリの分野でも、もっと知見をまとめて評価し、体系化する必要があると考えています。

### ・着任1ヶ月半、今の心境は？

城東7区の障害者センターなどを訪問していろいろ地域の話しをきいたりしていますが、今のところはまだまだ頭の中が混乱しています。もう少し待って下さい。

みなさまよろしくお願致します。

# 東京都リハビリテーション病院 医療福祉連携室

## 1. 設置の目的と役割

設立から14年を経て、医療・福祉における当院の役割や期待される医療の内容も変化してきている。病気や事故により障害を持った患者の、在宅介護、環境設定、社会参加、職業復帰援助等において、多くの経験と実績を積み重ねて、その成果は院内外での研究発表や研修生の受け入れ、研修事業など、医療・福祉の前進に貢献した。脳血管障害等の社会復帰援助については、先導的役割を果たしてきたが、介護保険の開始や回復期リハビリテーション病棟の開設により、社会全体の理解や受け入れ、支援施策や施設設備、人的支援の面でも充実が図られつつある。

また、医療の機能分化が進み、当院には、リハビリテーション医療における、より先進的な役割が期待されている。そのひとつとして、東京都より地域リハビリテーション支援センターの指定を受け、地域リハビリテーション科において相談・研修などの支援業務を展開してきた。地域リハビリテーションネットワーク組織作り、出張研修など行なってきたが、もう一歩進めて、地域諸機関へのリハビリテーション医療の視点導入や専門性の向上が求められている。

### 1-1. 目的

より高い専門性と指導性を持ったリハビリテーション専門病院および地域リハビリテーション支援センターの機能を持つ。

### 1-2. 役割

- ・患者・家族の暮らしに寄り添い、生活の質を高めていくように援助する。
- ・広く地域や関係諸機関に開かれた窓口となり、新しい医療や技法、情報を伝え、医療福祉関係者の力量向上を図る。さらにリハビリテーションネットワークなど組織化を推進する。

## 2. 組織

当院入退院患者についての相談援助を行なう相談科福祉指導と、在宅で生活する患者・障害者のリハビリ相談・指導を担ってきた地域リハビリテーション科で構成する。

室長(兼務リハ医)	1名	相談指導(医療ソーシャルワーカー)	8名
リハビリテーション医長	1名	事務	1名
理学療法士	1名	委託職員	1名

## 3. 業務

患者・家族・医療機関・福祉・介護施設からのリハビリ相談、受診・受療援助、入退院相談援助、介護保険情報収集、社会福祉相談、社会復帰援助、社会資源等の紹介、医学的評価、訪問リハビリ指導、テクノエイド、研修、ネットワーク支援、医療福祉情報収集、病院情報発信(広報)

## 4. 統計・分析

高齢者、障害者、予防対象年齢群についての動態調査、生活実態調査、患者退院後の生活状況調査、リハビリテーション再評価の必要度調査などの計画、調査実施後の分析、方針提案の検討など。

### 地域リハビリテーション科からのお知らせ

シンポジウム「日常生活とリハビリテーション」

11月20日 墨田区役所会議室にて開催

すみだ地域リハビリテーション連絡会は、区内におけるリハビリテーションの充実のために医療・保健・福祉・介護など各分野での問題点を検討し、分野間の円滑な連携の構築を図る事を目標として活動しています。

これまで「これからのすみだのリハビリテーション」と題したシンポジウム、「公開模擬カンファレンス」、「高次脳機能障害の事例検討会」を開催してきました。今回は上記をテーマに医療・保健・福祉・介護の各分野のシンポジストがそれぞれの立場から発言します。当院は、すみだ地域リハビリテーション連絡会の事務局を務めております。

次号では、シンポジウムの様子もお伝えしたいと思います。

数字で見ると？！

東京都リハビリテーション病院 早分かりっ！！

**454人**・・・実習生の受入れ人数

研修病院としての役割を持つ当院は、年間多くの実習生を受け入れています。

医師、看護師、PT、OT、ST、心理、医療ソーシャルワーカーなどの学生だけでなく、既に働いている方への研修も行う場合もあります。

## 江戸の下町・東京の墨田の昔語り

東京都医師会会長 唐澤 祥人

こんにちは。東京都医師会長の唐澤と申します。というよりも、区内立川1丁目に住んでおります一介の町医者でございます。よろしく。

しかしこの下町は、なんと島や川や橋に因んだ町名、地名の多いことでしょう。そしてわが墨田にも本当に江戸期以来の名所が多くあります。梅若塚で有名な木母寺をはじめ回向院など名所は数限りなく、文豪たちも多士済々です。今日は立川界限の話です。立川は本来「豎川」と書いていました。万治2年横川など開拓のために掘られました。この大工事は、徳山五兵衛と山崎四郎左衛門の二人の本所奉行が担当でした。

立川には隅田川から一つ目、二つ目、三つ目と順に橋がかけられ、一つ目通り、二つ目通り（清澄通り）、三つ目通り（水戸街道）となります。そして、本所一つ目に江島杉山神社があります。検校杉山和一が元禄6年、五代綱吉の治療に効あって、何事か望みはとの問いに、目1つと答え本所一つ目に土地と8百石と総検校職を受け、信仰していた江ノ島弁才天を勧請し、その後多くの盲目の人々を救ったそうです。検校は、没後本所二つ目弥勒寺に葬られました。

この弥勒寺は慶長以来、真言宗閩東觸頭の格式で本尊は川上薬師、江戸十三薬師の一つで周囲には塔頭が多くあり、多くの参詣者を集め最近まで毎月28日には縁日がたっていました。そして本所一つ目江島杉山神社にお参りし、二つ目橋を渡り弥勒寺の検校の墓を拝し、本尊薬師如来を拝めば、眼疾や健康に効ありと、また大出世した検校にあやかって商売繁盛などご利益大と伝えられています（弥勒寺、岩堀至道前住職談）。江島杉山神社には、宝井基角の「ほととぎす一二の橋の夜明哉」の俳碑が残っています。

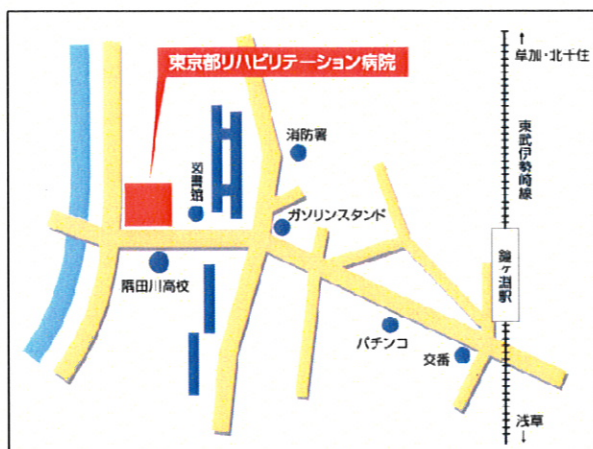
さて、池波正太郎描く鬼平こと長谷川平蔵のよく寄った弥勒寺門前の茶店お熊婆さんに会ってから三の橋を渡って「徳山稲荷」にお参りして、向島へ行きましょう。ではまた。



## あんな旅・こんな旅・・・

橋本さんは7年前に脳出血（両片麻痺）を発症。現在は長女さん夫妻と愛犬1匹が家族。デイケアに通う毎日を送っておられます。娘の朋子さんから、すてきな写真と手紙が届きました。

「母はとても元気です。3月にケニアへサファリに行きました。無理だらけの中、ケニアの人々のおおらかさで、何とか終えてきました。写っているのはマサイ族の女性達です。ライオンやチーター、バッファロー、キリン、象、たくさんの動物達に母は大喜び。改めて、人って支えられて生きているんだなって、感じました。出会ったばかりのケニアの方々が皆で母のことを運んでくれました。」



## 東京都リハビリテーション病院への交通案内

- (電車) 浅草から東武伊勢崎線鐘ヶ淵下車徒歩7分
- 北千住から東武伊勢崎線鐘ヶ淵下車徒歩7分
- (バス) 両国から都営バス「病院前」下車(約30分)
- (お車) 首都高速六号線堤通ランプ下